



動物レスキュー通信

2014年9月 第15号 (平成26年8月1日発行)

発行元

一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

実は多い 室内での事故やケガ



本年は夏が短く、秋の訪れがとて早いように感じました。この調子で季節が進んでしまつと駆け足で冬が訪れてしまうのではないかと少し心配です。そこで、寒くなつてしまつ前に、1年間の中で冬に起きる事が一番多いと言われている犬猫の室内での怪我、事故に付いてお話ししていきます。

犬猫は常に危険と隣り合わせ

詩月財団ではネコちゃん和飼い主さんの幸せな日々の為に、ネコちゃんの完全室内飼いを推奨していますが、現在はワンちゃん、ネコちゃん共に室内飼いがとても増えて来ています。室内飼いはワンちゃん、ネコちゃんが快適に過ごせるのももちろん、その他の健康管理のしやすさや、ワンちゃんネコちゃんと飼い主さんの関係づくりなどにおいても非常にメリットがあります。しかしワンちゃん、ネコちゃんにとっては、その室内飼いの実態は危険が潜んでいるのです。とはいふものの、この危険は飼い主さんの気遣いによつて回避できるものがほとんどなので、恐れる必要はありません。

ワースト1は異物誤飲事故

本来、食べるべきではないものを誤つて飲み込んでしまつ異物誤飲事故。これは好奇心が旺盛な子犬子猫で良く起こります

が、もちろん子犬、子猫だけに限つた事故では有りません。飼い主さん家族が外出している際や来客時など、ほんの少し目を離したすきに起きてしまつ事がほとんどです。誤飲しやすいものとしては小さなプラスチック製品やリボン、紐、おもちゃ、靴下、タオル、焼き鳥の竹串やチキンの骨、人間の薬やサプリメント、タバコの吸殻、植物など、実に様々です。運よく、飲み込んだものが全て、すぐに便と一緒に出て来てくれた場合は一安心ですが、そうでない限りは例えその時、症状が出ていなくても決して安心できません。異物が胃の中におとなしくあるうちは何の症状も出ませんが、それが腸に行つてしまつと腸閉塞を起こし、激しい嘔吐や食欲不振などの症状が現れるのです。数年たつてから症状が現れるケースもあります。そして開腹手術を余儀なくされる事があります。又、誤飲すると中毒症状が現れるものとして、タバコ、家庭用洗剤、防虫剤、シリカゲル、チヨレート、玉ねぎなどがあります。食べ物ではないものももちろんとして、チヨレートや玉ねぎなど、人間の食べ物もワンちゃん、ネコちゃんにとっては危険だと言つケースもありますので、注意が必要です。では、この異物誤飲事故を防ぐために、飼い主さんはワンちゃん、ネコちゃんにどのような気遣いしてあげればいいのか? ①「誤飲してしまふそうなのを片づけるワンちゃん、ネコちゃんの為のおもちゃなども言め、ワンちゃん、ネコ

ちゃんの手や口が届くところに物を出しつ放しにしないで、飼い主さんがきちんと管理する。②「退屈させない」飼い主さんの遊んでもらえない淋しさから退屈しにぎにそこに有るものをかじる、という事があるので、出来るだけたくさん遊んであげて、退屈な気分させないようにしてあげて下さい。③「飼い主さんが慌てない、騒がない」飼い主さんの目の前で、もしくはワンちゃん、ネコちゃんが異物を加えている所を発見した際には大声をあげ、焦つて口から取り出そうとすると、取られないようにと逆に飲み込んでしまつ事があるので、飼い主さんは慌てず、冷静に対応する事が求められます。④「日頃から訓練」ネコちゃんの場合は難しいかと思いますが、ワンちゃんの場合は日頃からの訓練で「ちようだい」「や」「放せ」などと、加えたものを出させる訓練をしておくと非常に役に立ちます。ワースト1の異物誤飲事故以外に、椅子やソファなどから飛び下りた際や段差につまずいての脱臼や骨折、電気コードをかじり感電、熱い浴槽に落ち火傷や溺れる、電気炊飯器の湯気で火傷、毛足の長いカーペットやレススのカーテンに引っかかり爪が剥がれる、ドアに挟まれてしまつ、などの事故もよくおきます。ワンちゃん、ネコちゃんの為、そして飼い主さんの為にも、日頃からワンちゃんやネコちゃんの行動をよく観察し、何が危険でどうすれば事故を予防できるのか考えて行動してあげる事でワンちゃん、ネコちゃんが快適に過ごせるだけではなく、無駄な麻酔などにより命のリスクもなく、又、無駄な高額医療費を掛ける必要もありません。

詩月財団ではこれからも様々な情報を発信し、不幸な犬猫がいなくなるように努力します。(詩月)